

「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	あしぐろ 芦蛙の獅子舞		
年月日	平成25年7月21日	場所	佐野市並木町花岡地区
参加者	花岡地区内の住民	人数	約40名

関連する憲章の条文

- ・とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り 子どもたちに引継ぎます
- ・子どもたちとともに 学び 喜び 励ましあい 社会の一員としての自覚を育てます
- ・子どもたちとのかかわりを深め 思いやりの心をはぐくみます

【芦蛙の獅子舞】

芦蛙の獅子舞は、五穀豊穡、無病息災、厄除祈願のため、約750年前から花岡に伝わる郷土民俗芸能で、佐野市の無形民族文化財に指定されています。獅子頭は、安楽時仁王尊の余材で、運慶、湛慶により作られたと言われています。こまいぬ形式の一人立獅子頭（雄獅子・雌獅子・子獅子）です。舞踊は厄神を探して歩く渡り節から、チャオロ、オンベ、ガタ等12通りあり、太刀持、御幣持、ささら等のお供を従えて、笛、太鼓の音に合わせ、例年7月第3日曜日（旧暦6月15日）、町内を舞いめぐります。



【活動スケジュール】

獅子舞の練習は、小学校高学年になると3人で1組をつくり始めます。また、この組編成を基本として、以後の例祭では継続して踊るようになります。例祭（毎年実施）の練習は、大祭時に覚えた踊りの復習の意味合いで祭りに2～3回程度練習し本番に備えます。

大祭は9年毎の開催（次回は平成26年）で、踊りを全種目披露します。数か月前から週2回程度行い、笛のメロディに合わせて獅子舞の踊りや3頭で踊るものなどを全て覚えます。

例祭の準備は約2ヶ月前から、縄を編んだり、御幣作りなどを行い準備します。芦畔獅子舞当日には、町内を離れて暮らす人も戻ってきて踊ることもあります。

大人の人たちが子どもたちに踊りを教えることで、コミュニケーションをとる機会も増え、町内の繋がりも強くなっているように感じます。

【今年度例祭の様子】

今年度は、以前からあった獅子頭が老朽化したため、昨年新しく作成した獅子頭で行いました。

当日は、花岡の各家すべての軒先で、二つの型（厄を払う「切り払い」＋その他もう一種）を踊りました。この日は、例年に比べ日差しは弱かったのですが、それでも暑い中、笛吹を筆頭に太刀持ち、御幣持、ささら、三頭の獅子が続き地区内を練り歩きました。三頭の獅子は、合間に大きな団扇で扇いでもらいながらも豪快な舞を披露していました。

午前中に、太刀持等をしていた子どもたちも午後からは三頭の獅子になり若々しい舞を披露してくれました。

【子どもたちの感想】

- ・伝統ある行事なので緊張感を持ってやりたい。
- ・一生懸命ミスなく頑張りたい。
- ・疲れたけど間違えることなく踊れてよかった。これからも続けていきたい。

